

豊田市の幹線道路網整備に関する要望書

世界をリードするものづくり中枢都市 豊田市

生産性の向上

国際競争力の強化

安全・安心なまちづくり

世界につながる
自動車製造ネットワーク

名古屋港

広域的な人流・物流を
支える道路ネットワーク

空飛ぶクルマと歩行領域EV



多様なモビリティの開発

世界屈指のテストコースを併設する
トヨタテクニカルセンター下山

新たな研究開発施設

自動車関連工場

ものづくり産業の集積地

雇用を支える製造業

全国有数の製造品出荷額

凡例 最重点要望路線



令和4年7月
豊田市幹線道路整備促進協議会



我が国は、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会経済、国民生活等への甚大な影響や、気候変動に伴い連年発生する大規模自然災害の深刻な被害に直面しています。また、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた取組やデジタル技術の積極的な活用、新たなライフスタイルを見据えた分散型の国づくり等、新たな時代の課題にも適切に対応しなければなりません。

世界をリードするものづくり産業の中核都市である本市においても、慢性的な交通渋滞による経済損失、南海トラフ地震等の大規模地震の切迫や激甚化・頻発化する風水害、明治用水頭首工漏水事案に象徴される加速化するインフラ施設の老朽化など我が国同様様々な課題を抱えています。

このような状況下において、引続きものづくり産業の中核として日本経済を牽引していくためには、感染症の拡大防止を前提に社会経済活動の確実な回復と経済好循環の加速・拡大に向けた生産性の向上や国際競争力の強化に取り組むことが重要であります。さらに、防災・減災が主流となる災害や老朽化に屈しない強靱なまちづくりや交通安全の確保など安全・安心な社会の構築が必要です。

これらの取組を進めるうえで、道路はポストコロナ社会の持続的な経済成長を支えるとともに、市民の命と暮らしを守り抜き未曾有の危機を克服する重要な社会基盤であることから、引き続き人流・物流の円滑化や活性化を図る道路ネットワークの機能強化、インフラメンテナンス及び DX の推進など防災・減災、国土強靱化の加速化、通学路等の交通安全対策を積極的に進めていく必要があります。

このような状況を踏まえ、下記の事項について特段の配慮をよろしくお願いいたします。

- 1 防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策に必要な予算・財源を確保し、計画的に事業を推進するとともに、5 か年加速化対策後も、予算・財源を通常予算とは別枠で確保して、継続的に取り組むこと**
- 2 経済活動復興や豊かで活力ある地方創りに資する道路ネットワークの整備について、計画的かつ着実に推進すること**
とりわけ、国道 155 号豊田南バイパスについては、開通見通しを早期公表すること
- 3 子供達の安全・安心を守るため、通学路等の交通安全対策の強化・推進と必要な予算を継続的に確保すること**
- 4 道路整備・管理に対する地方の切実なニーズを十分に踏まえ、地方が真に必要とする国道、県道、市道のいずれもが道路整備・管理を長期安定的に進められるよう新たな財源を創設するとともに、令和 5 年度道路関係予算は所要額を満額確保すること**

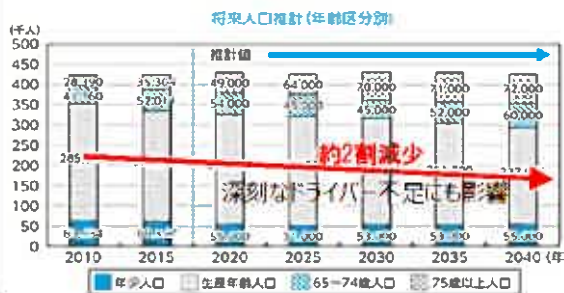


都市の持続可能な成長を実現する道路ネットワークの整備

人流・物流の円滑化や活性化により生産性向上や地域活性化を図り、災害時における緊急輸送道路の機能確保など**安全・安心で成長基盤の強化に資する、豊田南バイパス・豊田北バイパスの早期整備**が必要です。

豊田市が直面する課題

生産年齢人口の減少



巨大地震への備え



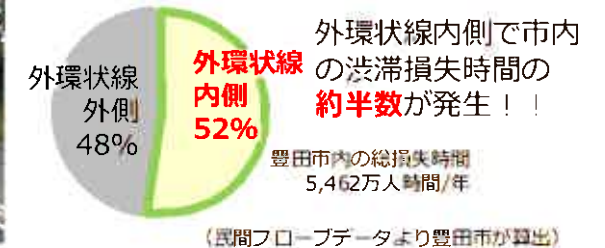
交通課題

主要な幹線道路が通過する中心市街地で多数の渋滞が発生し、市民生活や企業活動を阻害

人流・物流の円滑化が必要



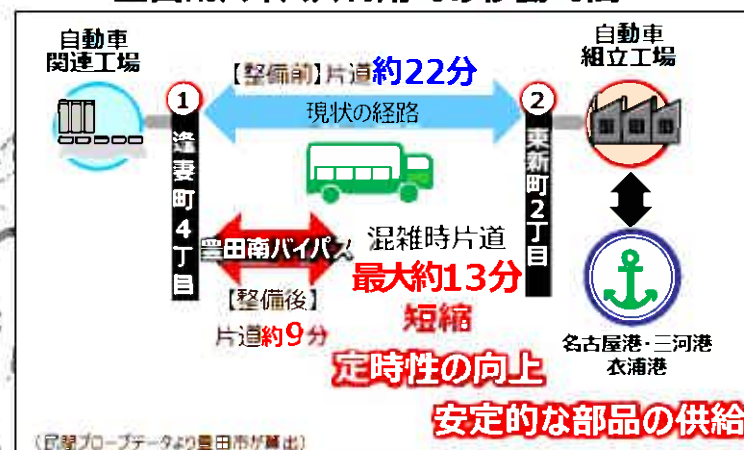
通勤時間帯の国道155号



自動車産業の一大集積地における物流の速達性や定時性を向上

豊田南バイパスの開通見通しの早期公表を強く要望

豊田南バイパス利用時の移動時間



自動車部品企業の期待

とりわけ豊田南バイパスができると渋滞を避けスムーズな輸送と定時性が確保できるため、一日でも早い開通を期待しています。

(R4.1 企業ヒアリング)

豊田南バイパス本線用地取得率

100%
全線工事中



施工状況(R4.4)

●物流の効率化による生産性の向上や国際競争力の強化

開通への期待から地域開発が進展

宅地供給等を促進する北部地域



●民間投資・需要を喚起

花本産業団地の需要が高まり拡張事業を実施、民間商業施設も多数進出



災害時には強靱な命綱として機能を発揮

一部区間の不通があっても速やかに迂回が可能



第3次救急医療施設までの救急搬送エリア等が拡充

豊田厚生病院(第3次救急医療施設) 15分圏域の変化			
【現状】	面積	【整備後】	【現状】
約40km ²	約1.5倍	約59km ²	人口
			約11.1万人
			増加
			約16.2万人

●幹線道路ネットワークの環状機能強化により災害時においても市民生活や企業活動を維持





安全・安心や広域的な人流・物流を支える道路整備

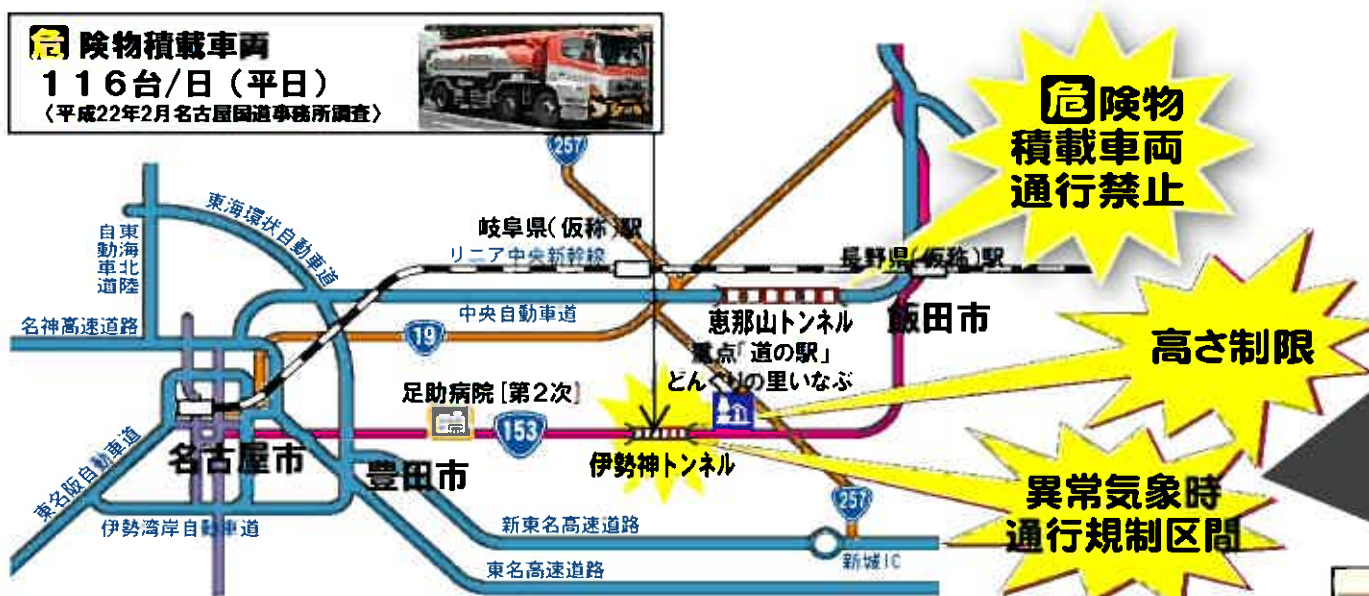
広域な危険物輸送、地域間における災害時や救急救命活動時の物資や人の搬送等を支えるため、

狭隘トンネルの早期解消が必要です。

国道153号 伊勢神改良 ～狭隘トンネルと雨量規制区間の早期解消～

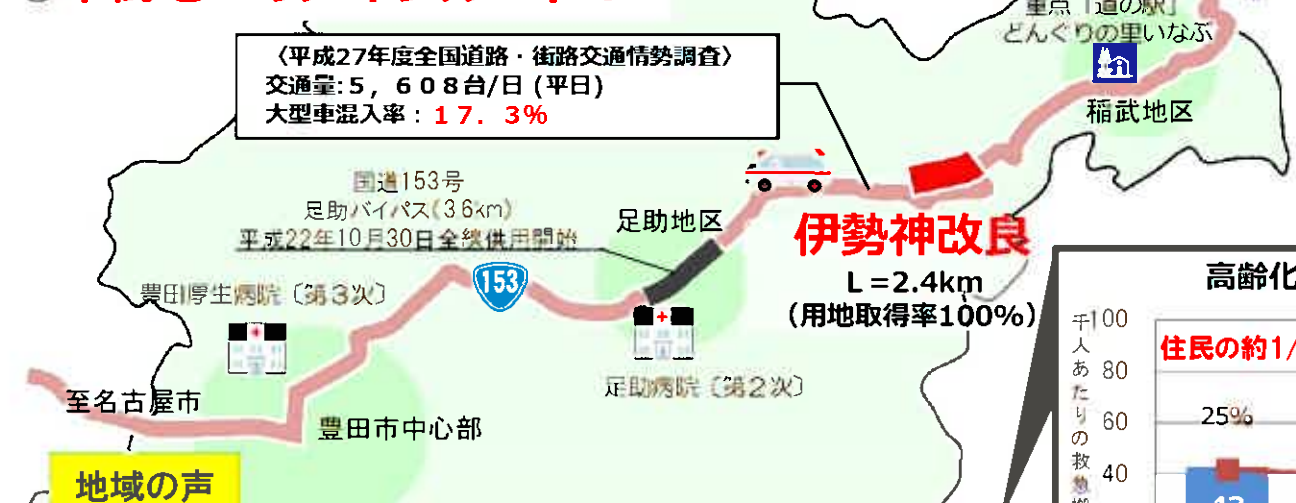
○国道153号は、名古屋-飯田間の**危険物輸送における唯一のルート！重要物流道路に指定！**

○**リニア開通後**は稲武から足助、**西三河をつなぐ最重要路線！**



○国道153号は、稲武地区から豊田厚生病院(第3次救急医療施設)への**重要な搬送ルート**

○**市街地へのメインルート！**



地域の声

国道153号は、稲武地区の地域医療を担う足助病院への唯一の道です。天候による通行止めが解消されれば、いつでも安心して病院へ行ける、まさに**命の道**です。

交通課題 狭隘トンネルと雨量規制がエネルギーの安定した供給を阻害

愛知県内の直轄国道で**唯一の異常気象時通行規制区間**(連続雨量150mm)が存在！

H29年～R3年の直近5か年で5回、最大12時間を超える通行止めが発生

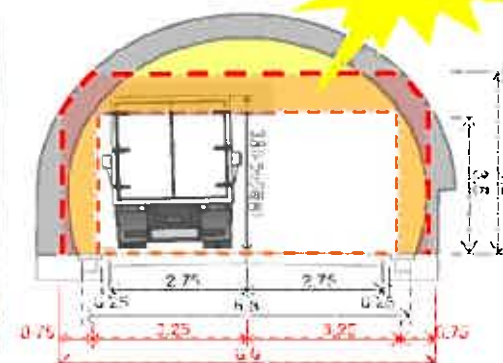
伊勢神トンネル

中部地方整備局管内の直轄国道で**唯一の高さ制限(H=3.5m)**が存在！



大型車は中央線をはみ出して走行

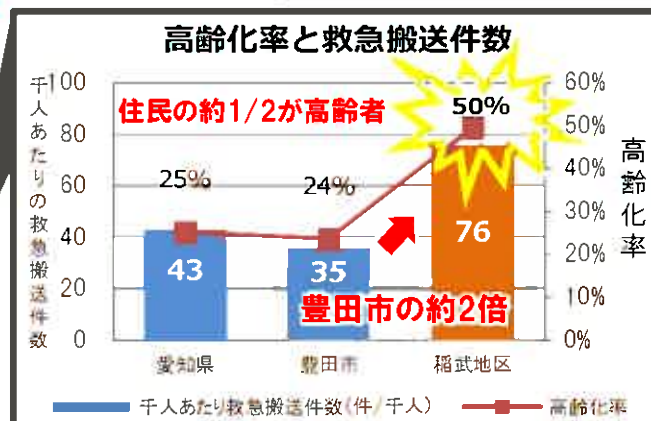
昭和35年7月完成
(昭和33年制定道路構造令に準拠)



新伊勢神トンネル(仮称)着工式(R4年5月28日)



稲武地区内の競技エリアをラリー車が激走！
ラリーを生かしたまちづくり(山村振興)



愛知県消防年報、豊田市消防本部ヒアリングデータより豊田市作成

伊勢神改良の早期開通を要望

- 人流・物流を途絶えることなく確保し、人命・経済の損失を最小化
- 広域な危険物輸送の唯一のルートとして安定したエネルギー供給による生産性の向上
- 重点「道の駅」～どんぐりの里いなぶ～を拠点とした地方創生
- 『地域住民の命をまもる』第2次救急医療施設や『命の砦』第3次救急医療施設へのアクセス性が向上

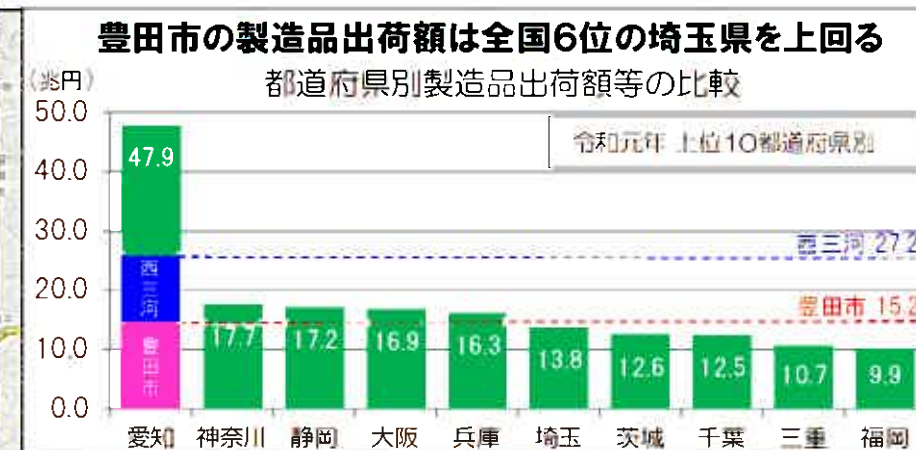


ものづくり産業の国際競争力強化に向けた道路整備

国際競争力・都市間競争力を高め、更なる産業の活性化を図るため新たな産業拠点へのアクセス道路の整備が必要です。

国道301号 松平バイパス～トヨタテクニカルセンター下山(Toyota Technical Center Shimoyama)へのアクセス道路整備～

- 下山地区に新たな研究開発施設として開設された**トヨタテクニカルセンター下山**は、**豊田市が更なるものづくり中枢都市としての持続的成長に資する重要な施設**です。
- 施設への安全で円滑なアクセス道路を確保するため、**国道301号の整備は最優先事業**です。



造成地引渡し完了
(令和3年3月24日)
事業面積 650.8ha
予定従業員数 3,850人
通勤及び関係車両 3,700台/日
(うち7割が国道301号を利用)
交通量が約1.3倍に!



ものづくりの技術革新を支える研究開発機能の集積地
トヨタテクニカルセンター下山
令和5年度より本格稼働予定(令和元年より施設の一部運用開始)

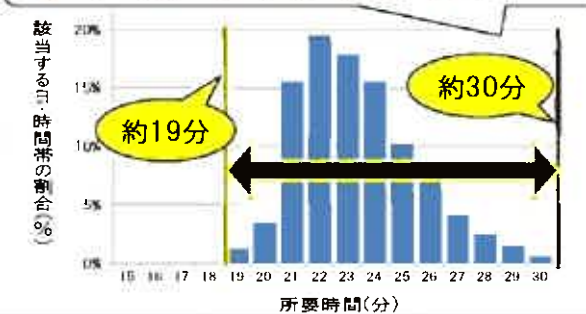
交通課題

松平橋を先頭に混雑が発生 (写真①)



交通課題

野見山拡幅区間～研究開発施設の所要時間のバラツキが大きい
渋滞の遅れを余裕時間として見込むため
所要時間のバラツキは生産性低下に直結する



(民間フローデータより豊田市作成)

- 人流・物流の円滑化や効率化による生産性の向上等、経済活動を支援
- 第2次緊急輸送道路の4車線化により、緊急時の避難・救助機能を向上

※松平橋～大内町区間において開通区間と旧道(九久平交差点経由)の所要時間を比較

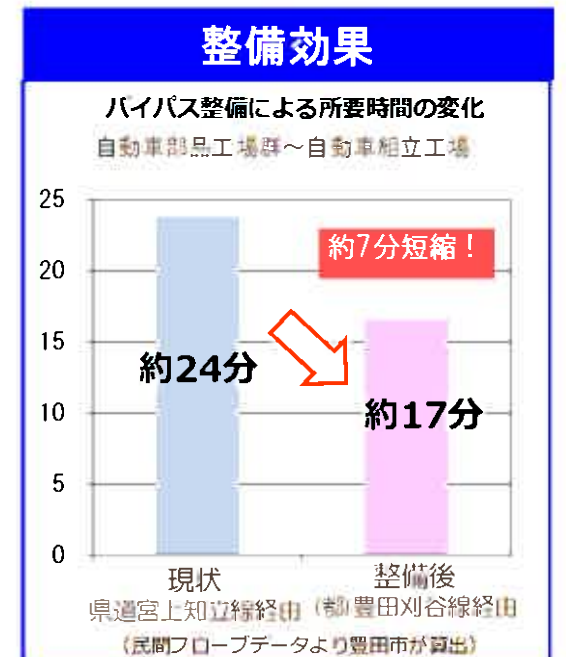
ものづくり産業の基盤を支え、高規格幹線道路へのアクセス性を高める道路整備

国際競争力の激化や労働人口の減少に対応するため、**物流を円滑化し、生産性の向上に資する**道路の整備が必要です。

(都) 豊田刈谷線 宮上知立線バイパス ～刈谷スマートICへのアクセス道路整備～

○豊田市の南部地区は、**自動車産業における主要な工場が集積**しており、**豊田南ICや周辺幹線道路に交通が集中**するため、地域の主要渋滞箇所を中心に慢性的な渋滞が発生しています。

○**円滑な移動を確保し、物流の効率化や安全・安心な道路交通環境を実現**するため、**(都) 豊田刈谷線の整備**が必要です。



- 工場間や刈谷SICへのアクセス性が向上し、国内外に向けたサプライチェーンを強化
- 通過交通や大型車交通の機能分担により、現道区間の混雑の緩和や安全性を向上
- 県道宮上知立線の代替機能を発揮、ダブルネットワーク化により災害発生時においても迅速に交通を確保



※ 県道車輸出台数 出典：名古屋税関
※ 工場生産台数 出典：トヨタ自動車HP

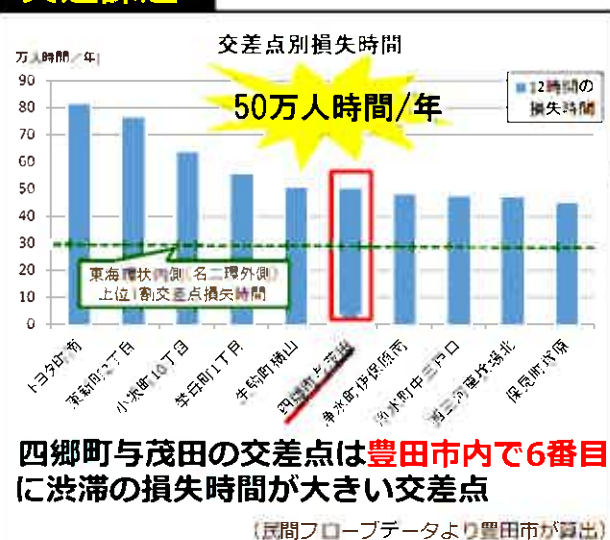
円滑な人流・物流を確保し、定住人口の増加や、生産性を支えるため、区画整理事業や産業団地の拡張事業に合わせた道路の整備が必要です。

国道419号 四郷拡幅 ～交通需要の増加に合わせた4車線化整備～

○現在、国道419号周辺では、四郷駅周辺での区画整理事業や花本産業団地の拡張事業などを推進しており、今後、事業の進展に伴い交通需要が増加することが見込まれています。

○既存の主要渋滞箇所を含め、円滑な市民活動、産業活動を確保するため、**国道419号の早期の4車線化整備**が必要です。

交通課題



通勤・帰宅時には1kmを超える渋滞が発生
右折車両による渋滞状況
(四郷町与茂田交差点) (写真1)



朝の渋滞時の様子(国道419号)
(写真2)



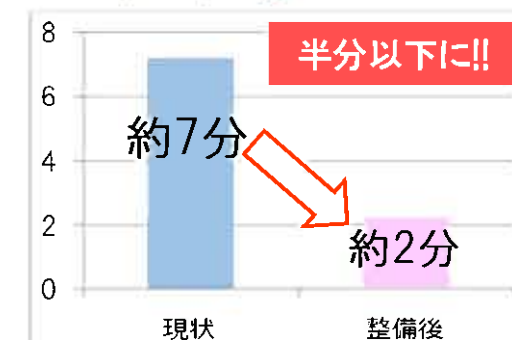
●道路整備による期待感から土地利用が高度化

花本産業団地	18区画(計画含む)
四郷駅周辺土地区画整理事業	731戸(計画含む)
民間商業施設	12店舗(R4.5時点)

整備効果

四郷拡幅による所要時間の変化

上原町上原～四郷町与茂田



(民間フローデータより豊田市が算出)

●交通の円滑化が民間投資・需要を喚起

通学路等における交通の安全・安心の確保

通学路等における子供達の安全・安心を守るため、地域の実情に対応した**交通安全対策の強化・推進と必要な予算を継続的に確保**することが必要です。

国道153号 交通安全対策 歩道整備事業（直轄事業）



勘八地区



中学校の通学路に歩道を整備（令和4年度新規事業化）

小田木地区



小中学校の通学路に歩道を整備

名古屋圏と三河山間部を結び、恵那山トンネルを回避する危険物積載車両の代替路線である国道153号において、歩道整備により歩行者等の安全性が向上

第11次豊田市交通安全計画（令和3年12月策定）

交通安全
対策の
3つの柱

①道路交通環境の整備
②交通安全思想の普及徹底
③先端技術の活用及び調査研究の充実

目標・
計画期間

令和7年までに死傷者数1,000人以下
（令和2年1,266人の20.6%減）

令和3年

交通事故死傷者数
愛知県下 4位
交通事故死者数
愛知県下 3位

3つの柱に基づく継続的な交通安全対策の推進が必要

①道路交通環境の整備

住宅地に流入する
通過交通

幹線道路における交通安全対策の推進

生活道路と幹線道路の
機能分化

（都）豊田刈谷線整備

踏切の除却

若林駅周辺 イメージ

名鉄三河線若林駅付近連続立体交差事業

自転車通行空間整備

矢羽根型路面表示

生活道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備

通学路における合同点検の結果を踏まえた
交通安全対策

対策前

対策箇所数
144箇所
ハード対策
128箇所

対策後

路面表示による運転者への注意喚起

ゾーン30

面的速度規制と物理的な速度
抑制装置

押しボタン式横断者明示標識

ビッグデータを活用した
事故多発地点対策



②交通安全思想の普及徹底 ③先端技術の活用及び調査研究の充実

自転車交通ルール周知



新たな技術の実装に向けた実証の推進

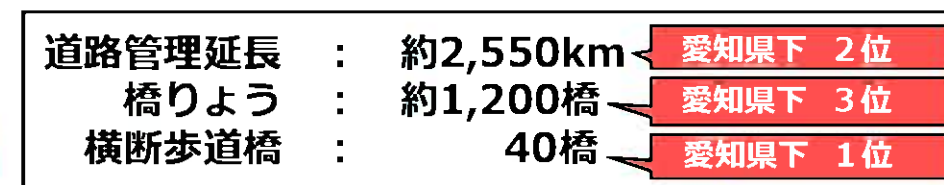


交通事故ゼロの豊田市を目指す

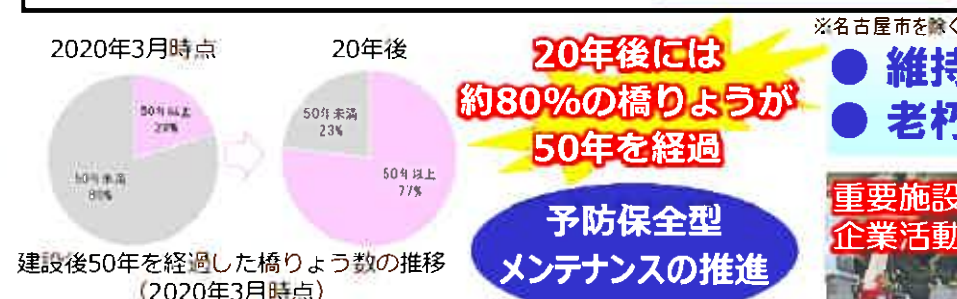
災害脆弱性とインフラ老朽化を克服した安全な社会の構築や都市・中山間地域を問わず持続可能で賑わいのある地域・まちを創出するため、**防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の着実な推進に向けた予算の確保**が必要です。

計画的なメンテナンスのための予算の確保

豊田市が管理する主要な道路インフラ



**愛知県下トップクラス
の道路施設管理数**



- 維持管理事業費の縮減・平準化
- 老朽化を起因とする重大事故ゼロ

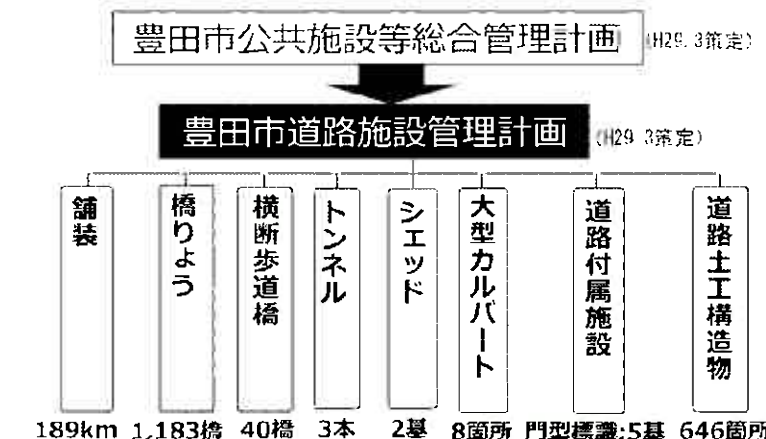
重要施設の機能不全が市民生活や
企業活動に与える影響は甚大



1巡目の橋りょう定期点検結果(H26~H30)
約120橋(約10%)が修繕対象に

長寿命化修繕計画に基づき修繕を実施
114橋（約96%）完了（R3末時点）

- ## ● 将来を見据えた持続可能で適正な維持管理



◆デジタル化等の推進



通行止リスクの解消



落石对策



中部インフラDXソーシャル
ラボ・センター

- 安全・安心を確保し、災害から国民の命と暮らしを守る

 重点道の駅「どんぐりの里いなぶ」 ～地方創生・防災・観光拠点～



地域振興



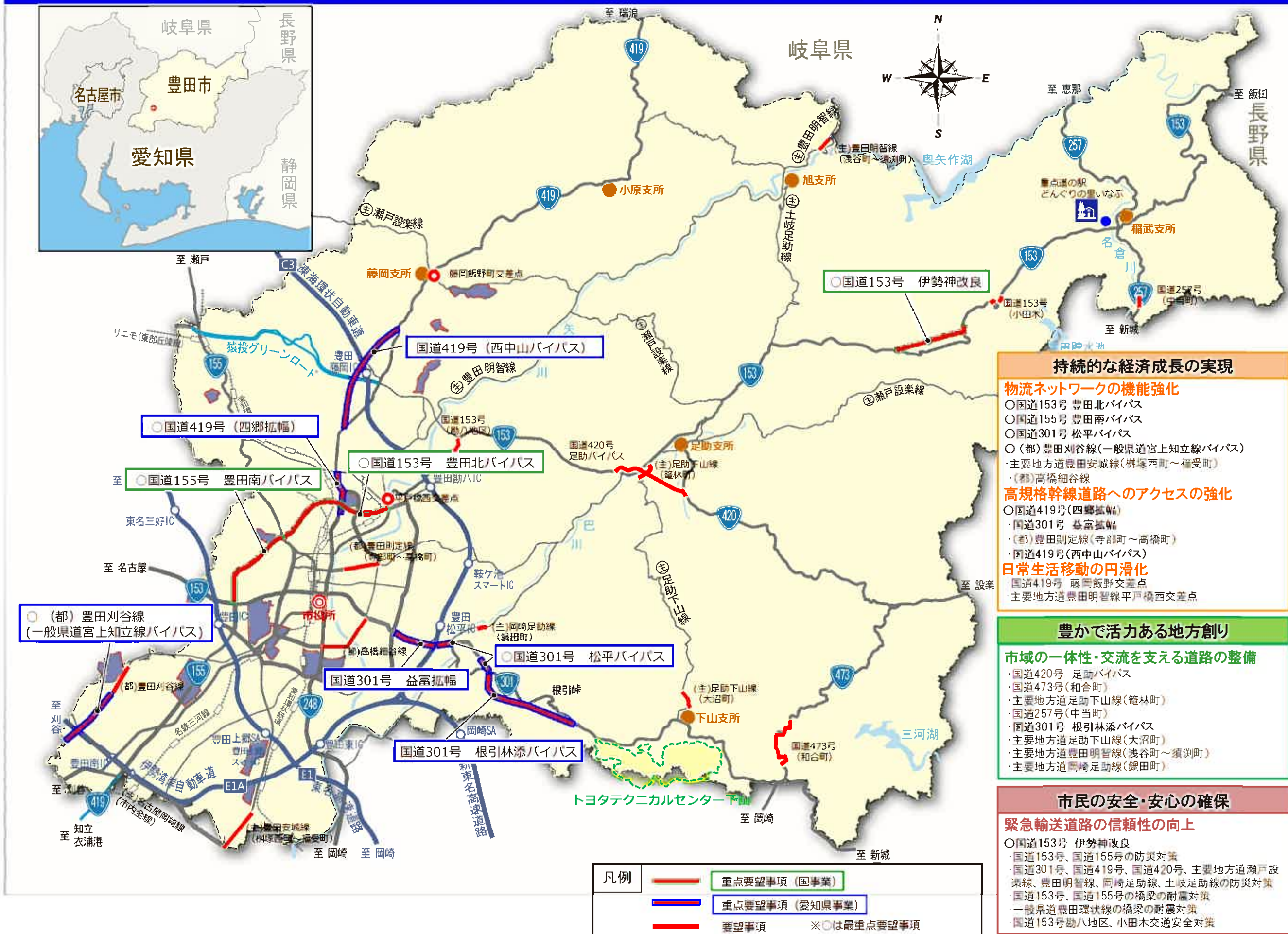
防災拠点



観光総合窓口

- 様々な機能が集約し、中山間地域の暮らしと経済活動を支える小さな拠点
- リニア開業を見据え、豊田市の北の玄関口として国内外に魅力を発信

豊田市の幹線道路網整備等に関する要望路線【位置図】(参考)



令和4年7月26日

豊田市幹線道路整備促進協議会

会 長 豊 田 市 長

太 田 稔 彦

豊田市議会議長

板 垣 清 志

豊田商工会議所会頭

三 宅 英 臣